

## 三重県御浜町における多田元吉が導入した 茶遺伝資源の収集

松永 明子<sup>1)</sup>・根角 厚司<sup>1)</sup>・佐波 哲次<sup>1)</sup>・喜多嶋 秀之<sup>2)</sup>・横山 幸徳<sup>2)</sup>

1) 野菜茶業研究所・茶業研究部・育種研究室

2) 三重県科学技術センター・農業研究部・茶業研究室

## Collection of Motokichi Tada's Tea Genetic Resources in Mie Prefecture

Akiko MATSUNAGA<sup>1)</sup>, Atsushi NESUMI<sup>1)</sup>, Tetsuji SABA<sup>1)</sup>,  
Hideyuki KITAJIMA<sup>2)</sup> and Yukinori YOKOYAMA<sup>2)</sup>

1) *National Institute of Vegetable and Tea Science, 2769 Kanaya, Shimada, Shizuoka, Japan*

2) *Department of Tea-Raising, Mie Prefectural Agricultural Research Center, 992-2, Tsubaiso-cho, Kameyama-shi, Mie, Japan*

### Summary

India-origin tea plants imported by Motokichi Tada in Meiji-period were collected in Mie prefecture. In 1875, Motokichi Tada went to India to research black tea. He traveled in Assam, Darjeeling and tea-producing districts in northwestern India, and brought back tea seeds.

Motokichi Tada's genetic resources had been selected or used as breeding parents, and excellent black tea and green tea cultivars were bred. Most of his original collections have disappeared.

Today, his collections still survive in Mie prefecture. We collected these tea shoots in Mihama-cho Mie prefecture, and planted them by cutting in a glasshouse.

#### 1. 目的

多田元吉は明治時代中国、インドへ茶の栽培・加工の視察に行き、各国の産地から茶の種子を持ち帰った。それらの遺伝資源は国の茶の育種事業において利用され‘べにふうき’‘りょうふう’‘べにほまれ’‘べにふじ’‘いずみ’‘いんど’など優秀な品種を生み出している。現在、多田元吉が持ち帰った種子の実生園はほとんどなくなってしまったが、三重県御浜町には多田元吉がインドより持ち帰った種子の茶園といわれるものが残っている (Fig.1)。これらの遺伝資源を保存

するため、現地で個体の調査と挿木による保存を行った。

## 2. 方法

調査及び穂の採取は2004年6月14日に行った。採取地は南牟婁郡御浜町栗須の山田伸行氏所有の茶園である。個体の位置と大きさおよび本数を調査後、その年に伸びた枝を各個体10本ずつ採取し、水苔で保水し持ち帰り、野菜茶業研究所のガラス室内のペーパーポットに挿木した。2005年4月に鉢上げし、ガラス室で管理した。また、三重県科学技術センター農業研究部茶業研究室にも同様に持ち帰り、挿木を行い、2カ所での保存を行った。



Fig.1. Mihama-cho, Mie prefecture  
三重県御浜町

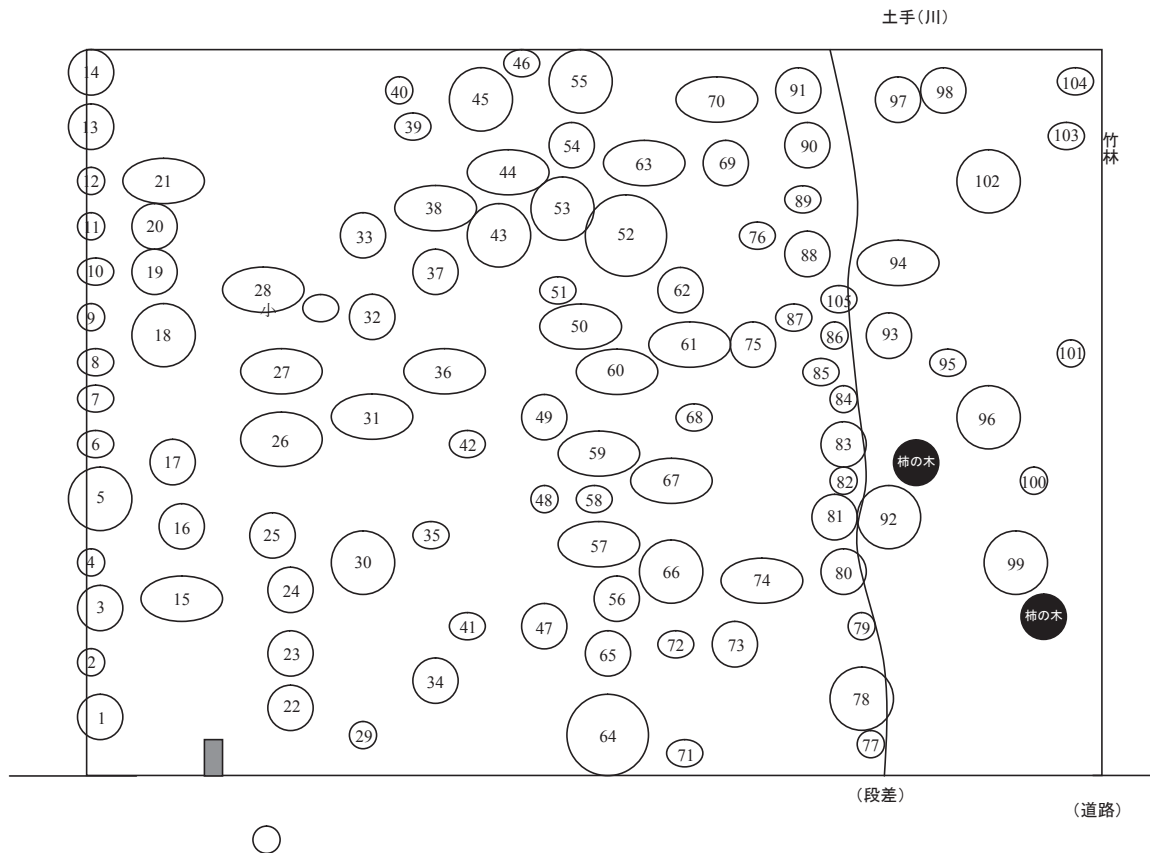


Fig. 2. A site map of tea plants maintained by Mr.Nobuyuki Yamada.  
山田伸行氏茶園

### 3. 結果

茶園における個体の位置を示した (Fig.2). 合計 105 個体を確認した. 記録では, 1877 年に多田元吉がインドのカルカッタ植物園から持ち帰り, 三重県に配布された種子を蒔いた茶園となっているが<sup>1)</sup>, 葉は一般的なアッサム種と比べ比較的小さく, 樹姿は灌木性を示していた (Photo 1, 2, 3). 周辺は水田が多く, 茶の生産は行われていないが何軒かの農家では垣根に茶が植えられていた.

挿木の結果, 105 個体のうち 97 個体が活着し, 鉢上げを行った (Photo 4). 今後はガラス室内で養成後, 圃場に定植し管理, 調査を行う予定である.

### 4. 所感

多田元吉の遺伝資源より育成された紅茶品種 ‘べにほまれ’ は発酵性の良い優れた紅茶用品種である. また, ‘りょうふう’ はさわやかな香気が特徴の緑茶用品種である. それぞれ日本の在来種にはない特徴を持っている. 今後もいわゆる多田系遺伝資源を利用した育種により有用な品種が作出されることが期待される.

現在, 金谷茶業研究拠点では静岡県静岡市丸子に存在していた多田元吉の遺伝資源を 15 株移植し保存している. また, 1963 年に, 今回調査した, 御浜町の茶園の遺伝資源のうち 12 本が三重県農業技術センター経由で導入され, 保存されている.

全国各地にあった多田元吉がインドより持ち帰った茶の遺伝資源は大部分が失われてしまったため, 今回, 御浜町で採取した遺伝資源は非常に貴重なものであるといえる.

### 5. 謝辞

穂の採取・調査を許可してくださった, 園主の山田伸行氏に感謝します. また, 調査の手助けをしてくださった三重県紀南県民局の技術普及主幹の宇田孝彦氏に御礼申し上げます.

### 6. 参考文献

- 1) 川口国昭 (1989) 茶業開化 山童社.





Photo 1. The tea plantation of Mr.Nobuyuki Yamada.

山田伸行氏茶園



Photo 2. An example of tea plant collected.  
個体の様子



Photo 3. Field survey of tea plants.

調査の様子



Photo 4. Tea plants planted in the pods.  
鉢上げ後